

短期塾生報告

11月19日～21日、NPO法人JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）から、若者5名が短期塾生として各地から来色し、小阪区青年会「美里会」の獣害対策作業や「棚田を守ろう会」のしめ縄づくり体験イベントなどに参加しました。

農作業を通して地域の方々と交流し、忙しいながらも各塾生が充実した日程を過ごしました。

以下、加畑理咲子さんからの体験報告です。

「大切なもの」 加畑理咲子さん

「空気のきれいな場所に行きたい」と、常々、思っていました。大学の生協で、偶然JUON NETWORKのことを知って、「これに参加すれば、きれいな空気を吸えて、のどかな景色が見られるに違いない」と思い、色川ツアーに参加することにしました。そして、参加して本当に良かったです。

特に印象に残ったことを3つ書きます。

1 つめは、美しい棚田です。色川に着くとすぐ、車で地区中を案内いただきました。何段も何段も続く小阪の棚田には、息をのみました。こんなに多くの棚田を作り上げた昔の住民の方々、そして、いまこの棚田を守ろうと日々努力している「棚田を守ろう会」の方々を、尊敬します。こんなに見事な棚田を、作ることは言うまでもなく、守ることもどんなに大変なことでしょう。棚田の管理で問題になっていることも教えていただきました。人手不足、そして獣害です。「棚田を守ろう会」の方々は皆さん、ご自分の田をすでに持っていらっしゃる。その上、別の



杉の皮を剥ぐ加畑さん

棚田の手入れまでおこなうのは、時間的にも体力的にも負担が大きいのです。棚田の管理を持続的にこなしていくためには、すべての人にとって無理のない仕組みが必要です。また色川に行く気満々の私としては、「棚田を守ろう会」の活動のお役に立てるためには何をしたらいいのだろう、この美しい棚田を色川の、いえ、日本の財産として末永く残していくためにはどういう仕組みが必要なんだろう、というのをこれから考えていきたいです。

棚田だけでなく、色川の風景は本当に美しいです。紀伊山脈を見晴らすことができ、その向こうには太平洋の水平線が見えます。山と海を同時に見晴らすことができるなんて、なかなかないことではないでしょうか。次に行くときには、早起きして、朝焼けの風景を見たい！と楽しみにしています。

さて、2 つめは、素晴らしい人々との出会いです。色川の住民の方々、田舎で働き隊や集落支援員の方々、JUON の方々、皆さんがとても暖かい雰囲気を持っていらっしゃる。親切で、笑顔のすてきな方ばかりでした。皆さんが、色川を誇りに思って、地域おこしのため日々努力していらっしゃるがよく分かりました。私がまた色川に行こうと思うのは、この出会いがあったからこそです。色川のすべての集落が一致団結して、色川のより良い未来のために協力していく気運が、中でも外でもっともっと高まっていけばいいなと思います。



3 つめには、ものを大切にする姿勢を学ばせていただきました。ツアー2日目に、しいたけ栽培の囲いをつくりました。猿が入ってきて椎茸を食べてしまわないように、皆で一所懸命に網を張り巡らしました。私は、この網は当然どこかから買ってきたものだと思っていました。無意識に、そう思っていたのです。しかし、違いました。この網は、漁師さんが使わなくなったので譲ってくれたものだったのです。もともと養殖用の網ですから、とても大きい網なのです。午後には、その網を皆で力を合わせて、村で使うのにちょうど

いい大きさに切り分けました。かなり力が必要な作業でした。時間もかかりました。でもだからこそ、ものを大事にする姿勢がひしひしと伝わりました。海でつかっていた網を、今度は山でつかうなんて、すてきですよ！都会の人々は「リサイクルだ、エコだ」と騒いでいますが、色川の方々は何も特別なことをやっているという意識ではなく、淡々とこういう作業をしているのです。都会に住む私たちは、見習わなくてはいけないと思います。



漁業用の網を切る作業

さて、次色川に行くときには、まず棚田の管理にお役に立てることを何かしたいです。そして、村に住む高齢の方々に直接お話を伺う機会があればと思います。色川の歴史を、そして色川がどう変わってきたのかを、生の声から学びたいからです。

今回のツアーでは、たくさんのお話を教えていただき、忘れられない2日間になりました。本当にありがとうございました。また行きます！！

※「棚田を守ろう会」(<http://www.zb.ztv.ne.jp/tanada/>)